

地域情報（県別）

【宮城】150平方メートルの屋外リハビリテーションエリアを持つクリニック開院-関口拓矢・宮城整形外科 スポーツ・ウェルネスクリニック院長に聞く◆Vol.1

多い日は120人近く来院「予想を上回るペース」

2025年1月7日（火）配信 m3.com地域版

2024年5月に新築オープンした「宮城整形外科 スポーツ・ウェルネスクリニック」（黒川郡大和町）は、国内のクリニックでも数少ない屋外リハビリテーションエリア、自前のオープンMRIなど関口拓矢院長のこだわりを体現している。「痛みを悩む人に良い環境の中で動きを取り戻す機会を提供したい」と話す関口氏に、開院の経緯や診療の特徴などについて聞いた。（2024年11月14日オンラインインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)（近日公開）

専門は肩関節外科、スポーツ整形外科

——診療や設備の特徴を教えてください。

当院では一般整形外科に加え、肩関節外科とスポーツ整形外科の専門医療を提供することを特徴としています。設備面ではタイムラグのない迅速な診療を自院で行えるようにオープンMRIとエコーを導入しているほか、レントゲン、骨密度測定装置も備えています。

仙台市よりも北部のエリアでMRIを保有している整形外科クリニックは少なく、当院の特徴の一つです。一般的なクリニックでは、MRI検査のために総合病院や画像センターへ紹介し画像検査を行いますが、診断・治療が遅くなります。一方で、総合病院への直接受診は難しいケースが多いのに比べ、クリニックでは比較的受診がしやすいというメリットがあります。

受診しやすい環境で、精査が必要な場合は早期にMRI撮像し診断することで、患者さんの困りごとを早く解消できるよう心がけています。

新築した建物の外観は黒色や木目をベースにスタイリッシュに、内装は白色を基調に落ち着ける空間にしました。建物以上にこだわったのが国内のクリニックでも数少ない屋外リハビリテーションエリアです。約150平方メートルのスペースに人工芝を敷き、リハビリに活用しています。開業の検討当初から設置したいと構想していた設備なので、私の思いを反映できるように設計に時間をかけました。



関口拓矢氏

— いったい患者が多いですか。

全体の3割ほどがスポーツに関わりがある患者さんです。近くで活動している社会人野球チームや、スポーツ少年団・部活動・クラブチームに所属している小中学生、シニアのスポーツ愛好家も多く受診してくれます。特に肩関節のけがは得意分野ですので、口コミで肩に不調を感じる方が遠方からも来てくれているようです。

— 人員体制を教えてください。

医師1人、看護師3人、理学療法士4人、医療事務4人、診療放射線技師1人です。理学療法士は当初3人でしたが、途中で1人増員しました。もう少し運営が軌道に乗ってきたら、さらなる理学療法士の増員についても検討しています。

「自分が理想とする医療を行いたい」開業を決意

— 2024年5月に新規開院に至った経緯を教えてください。

子どもの頃から野球に親しむ中で、私自身がいろいろなケガや障害に悩まされてきましたので、「ケガに悩む人を良くしたい」という思いが医師を目指した根本にありました。勤務医として経験を重ねるうちに、自分のやりたい診療と実際にできることに徐々にギャップを感じるようになり、「自分が理想とする医療を行いたい」という気持ちがどんどん強くなってきました。

何かにチャレンジするなら、年齢的にも40歳は一つの分岐点だと思っていました。30代後半に差しかけた2021年秋から開業を意識し始め、宮城県内で調剤薬局経営・開業支援事業などを行っている「すずめメディカル株式会社」の鈴木智之社長を共通の知人を通じて紹介してもらいました。鈴木社長らとの話し合いを経て、本格的に開業を決意したのが2022年初め頃です。

その後、すずめメディカルにピックアップしてもらった土地候補の中から、新規で宅地造成計画があった現在の立地に決めて、2022年春頃から具体的な設計に取りかかりました。宅地造成計画の進行に合わせて、実際に工事が始まったのは2023年夏です。2024年4月に建物の引き渡しを受け、39歳でこのたびの開業に至りました。



クリニック外観

— 大和町という立地を選んだ理由は何ですか。

まずは広さです。自分がやりたいことの一つに「運動器リハビリテーションを充実させたい」という点がありまして。また、MRIなど機器の設置にもスペースが必要でしたので、十分な広さがある土地にこだわりました。

また、ここの立地は国道に近く、仙台北部道路の富谷インターチェンジもすぐ近くにあるので、東西南北どこからでもアクセスしやすいことも理由の一つです。周辺には少し古い住宅街と、子育て世代が集まるような新興住宅地、工業地帯があり、幅広い年齢層が集まっている地域であることも決め手でした。

口コミの来院増加、新患率20%キープ

——開院してから約半年の集患状況はいかがですか。

ありがたいことに、予想を上回るペースで患者さんが集まっています。1日の来院患者数は平均90～100人ほどで、混んでいる日は120人近くを診察しています。看護師が事前に患者さんの話を聞いてまとめた上で情報共有してくれるので、限られた時間の中で効率的に診察できています。

集患方法としては、ホームページやInstagramなどSNSを活用したり、国道沿いに看板を立てたりしています。大和町・富谷市周辺で発行しているフリーペーパーに広告を出す時もありますが、最近は口コミをきっかけに来院される方が増えてきたように思います。

例えば、スポーツクラブに通っている方が別の会員を紹介してくれたり、同じスポーツチームのメンバーが続けざまに数人来院してくれたり。スポーツをしている方は同じような体の悩みを持っているので、そういった方々のネットワークが広がりつつあるようです。

リピーターの患者さんはもちろん大切ですが、一番良いのは完治してもらうこと。良くならない患者さんだけで集まるようなクリニックにはしたくないです。現在の新患率は20%ほどをずっとキープできています。



オープンMRI

——地域の医療機関とはどのように連携していますか。

当院には手術可能な設備は備えていませんので、手術適応となる可能性のある骨折や専門的な治療が必要な疾患は総合病院に紹介しています。いずれも仙台市内にある松田病院、本間記念東北整形外科、JCHO仙台病院、東北労災病院などに紹介するケースが多いです。

肩関節の手術に関しては、2024年3月まで勤務していたJR仙台病院（仙台市）に患者さんを紹介して、そちらで私が手術をさせてもらっています。融通をきかせてくださっており、常勤の先生やスタッフの皆さんに非常に感謝しています。CT検査はクリニックに機器がないので、地域の医療機関にお願いして撮影してもらうなどお世話になっています。

実際のスポーツ動作確認、リハビリ計画に活用

——国内のクリニックでも数少ない屋外リハビリテーションエリアを設けた狙いは何ですか。

スポーツ選手の診察では、診察室や屋内リハビリ室では回復したように見えても、実際に投げたり走ったりすると痛みを感じてしまうケースが多くあります。これまでの総合病院での診察では、投げるフォームを動画で撮ってきてもらって、それを外来診療でチェックすることもあったのですが、その体制には限界を感じていました。

屋内リハビリ室でネットを設けているところもありますが、それでも人に向かってボールを投げたり、蹴ったり、テニスのように打ったりする実際のスポーツ動作とは勝手が違います。「実際の動きを見ることができるスペースが欲しい」との思いは開業を検討した当初から強く持っていました。

トップレベルのスポーツ選手にはトレーナーやチームドクターがいて、豊富な設備の中でさまざまなサポートを得ることができ、障害からも段階的に復帰することができます。当院ではそういった体制に近づけて、子どもでもシニアでも、できるだけ良い環境の中で動きを取り戻す機会を提供したいと考えています。



屋外リハビリテーションエリアを活用している

——屋外リハビリテーションエリアはどのように運用していますか。

当院には約100平方メートルの屋内リハビリ室があります。診察室や屋内リハビリ室で痛みが改善された方が、次の段階に進んで実際の動作面を詳しく検討する時に、理学療法士の判断で屋外でのリハビリを実施します。

屋外リハビリテーションエリアは、クリニック屋上に作成した約150平方メートルの人工芝スペースです。エリアを囲むネットも設置していますが、強度も重視し、硬式野球ボールも使用可能なものです。

リハビリは基本的に40分ごとの予約制にしています。リハビリ受診時に、私はリハビリエリアで患者さんの話を聞くようにし、実際の動作を見ながら、患者さんの前で理学療法士と今後の治療方針やリハビリ計画を共有しています。

リハビリ計画において理学療法士の判断はかなり重視しており、基本的に担当・予約制にしています。リハビリ予約枠の9割ほどが常時埋まっている状況で、特に週末や夕方はほぼいっぱいです。

一つ残念なのは、屋外リハビリテーションエリアには屋根がなく、天候次第では使用できないことです。理想を言えば屋根を付けて全天候型にしたいのですが、建ぺい率などの関係でなかなか難しいです。これから開業して初めての冬が来ますので、雪がどのくらい降るかを見ながら、有効活用できるよう工夫したいと考えています。施設のさらなる充実は常に課題にしています。

◆関口 拓矢（せきぐち・たくや）氏

2009年3月福島県立医科大学卒、4月より財団法人竹田総合病院。2013年10月東北大学病院、2014年4月～2015年3月JCHO仙台病院。2014年4月東北大学大学院医学系研究科整形外科学分野大学院。2018年4月岩手県立中央病院、2020年4月JR仙台病院整形外科。2024年より宮城整形外科 スポーツ・ウェルネスクリニック院長。

【取材・文＝福岡美幸】（写真はクリニック提供）

記事検索

ニュース・医療維新を検索

